

互和讃会 27 年例会 (S37 年卒)

10月7日(水)午後1時、JR宇治駅に遠路関東からも2人含めて14人が集まった。今年の互和讃会は、京都宇治に住んでいる又は住んだことのある柴田、三崎両君に幹事になって貰い、宇治、伏見を巡る会となった。

今晚宿泊する「花やしき浮舟園」の送迎バスで宇治平等院を訪れた。世界文化遺産平等院は、何と言っても10円硬貨にデザインされていることで有名だが、昨年春修復なり内部拝観が再開された国宝鳳凰堂(阿弥陀堂)が中心であろう。その鳳凰堂を一時間待って参拝した。



阿弥陀如来坐像

中堂に安置された本尊阿弥陀如来坐像は、往時(平安時代)の貴族が極楽往生を願って浄土教が流行した頃、時代屈指の仏師定朝により造られたもので、今日でも万民の心を癒す微笑が浮かんでいる様に思えた。



茶を点てる

次に平等院表参道にある三星園上林三入本店で、抹茶を点てる体験をした。我々の多くは初めての体験だったと思うが、この店の主の滔々たる話を(半分は自慢話の様に聞こえたが)聞きながら、自分で、臼で茶を挽き茶筌で点てて飲むというコースである。

この後中の島から宇治川を渡って、学問の神様として菟道雅郎子を祀っている為学業のお参りが多い宇治神社、その奥の宇治上神社を参拝した。日本最古の神社建築といわれ、世界文化遺産に登録されている宇治上神社の本殿、拝殿は国宝である。

再度宇治川を渡って戻り、待っていてくれた高井君と合流し宿へ向かった。

ゆっくり風呂で汗を流した後、宴会場で先ず既に亡くなった10人の旧友を偲んで黙祷してから、並べられた和風会席を食べながら酒を楽しんだ。宴会中各人の近況を紹介したが、殆ど話はやはり健康についてであった。多くが色々な病気を経験しており、これからの人生を如何に健康で尚有意義に過ごすかが話題の中心だった様に思う。宴会の後は、恒例の様に一つの部屋に集まって、幹事の柴田君に用意して貰ったビール、日本酒、焼酎にウィスキーで乾き物等のつまみで二次会を楽しんだ。わいわいと11時頃まで話は尽きなかった。最後に、来年の互和讃会は大阪在住の高井君中心に企画して貰い、場所は大阪近辺で決まった。

翌朝新たに参加した奥山君を含め16人で茶粥などの朝食を済まし、送迎バスで黄檗山萬福寺まで送って貰い、丁度縁日であったこの寺にお参りした。黄檗宗大本山の寺院で、開山は中国の隠元禪師、本尊は釈迦如来である万福寺は、中国風建造物であり建物、仏像の様子は元より儀式作法から精進料理に至るまで中国風で日本の一般的な仏教寺院と異なる。この寺には中華系の多くの人の墓があるそうである。



大雄宝殿（重要文化財）



開槲（かいぼん 又は魚槲）

この後京阪で中書島まで行き、ブラブラと歴史街道を歩いた。ここで大倉記念館を訪ねる。日本酒の醸造工程を見学し月桂冠の試飲、三種の酒の違いを味わった。又ブラブラ歩いて、幕末の志士たちの騒動があった寺田屋にも訪れた。志士達の志を書いた書が展示されており、乱闘を表す刀疵などを含め非常に生々しく思えた。



寺田屋

昼食は黄桜酒造のキザクラカップカントリーで摂った。表からは見えないが、中には勿論日本酒他のショップがあり、かなり広いレストランがある。小部屋もいくつかあって宴会も出来そうである。庭のカップの前で集合写真を撮り、散会となった。みんなで歩き、平日の昼間にもかかわらず多くの人で賑わっている大手筋通に驚きながら、京阪、近鉄それにJRと各々分かれて帰途についた。



写真左から 宮崎博、山中寛城、高井禎之、福西興至、阪口文雄、奥山正夫、池田晴充
宮脇雄也、柴田二三男、三崎歩、中西藤司夫、市川喜代始、斉藤邦秀
前列左から 岩坪正光、川崎登、筆者

（色染昭37年・山崎 治忠）